



第77号 2007年9月

発行：萩ネットワーク協会  
〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内  
TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458  
萩市ホームページ <http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/>

## 主な目次

ふるさと文学散歩⑩大宅壮一	P4
ズームアップ「白松博之」(阿武町)	P6
元気企業探訪⑤道の駅・萩しーまーと	P8
夢追人「小祝敦」(萩市)	P12

8月1日に萩夏まつりが、例年どおり日本海大花火大会と共に開幕しました。約7,000発の花火は市街一円で眺められますが、堀内の外堀通りから萩博物館周辺にも多くの人が集まりました。今年から花火師が代わり、カラフルな色彩が特徴でした。

昨年完了した博物館周辺道路の電線類地中化により、隅矢倉から見る今年の花火は格別でした。(写真 堀内・原田秀子さん)

## おもいででの夏

### 城下町の花火







プレイベント  
開催中!

来年の7月～9月、JRグループが全国に向け集中的に山口県をPRする「おいでませ山口デスティネーションキャンペーン」が開催されます。これに先駆け、今年の7月～9月をプレキャンペーン期間として、山陰観光列車「みずみ潮彩」の運行開始、SLリレーイベントなど、県内でさまざまなPRイベントが開催中です。萩市では、9月下旬に「着物ウィークin萩」、「萩・竹灯路物語」が開催されます。

## 9月22日～9月30日 着物ウィークin萩

日本文化の美の象徴とも言える「着物」を着て萩の町を散策できます。江戸時代の古地図が今もそのまま使えるほど美しい町並みが残る萩をステーションに、和を楽しみ、和を身につけ、和を思い出に残していただくイベントです。

■とき 9月22日(土)～30日(日) 午前9時～午後5時  
■ところ 萩城下町周辺および萩博物館周辺  
■料金 着物レンタル3500円(午前10時～午後5時) / 旧久保田家住宅、体験プログラム「和の学び舎」500円

## 9月28日～9月30日 萩・竹灯路物語

江戸情緒あふれる歴史の町並みに1200基の竹灯が立ち並び、萩の夜を幻想的に彩ります。

■とき 9月28日(金)～30日(日) 午後6時～9時  
■ところ 萩城下町周辺および萩博物館周辺  
■ピアノソロライブ(旧久保田家住宅)、アートフラワー展示(木戸孝允旧宅)  
■問い合わせ 萩市観光協会(0838・25・1750)

90人

## 全国から受講生が萩へ集結

**平成秋塾 萩・維新塾 萩陶芸大リーグ**  
8月17日から31日にかけて、松村下塾開塾150年を記念して、萩の歴史や文化を学ぶ二つの塾が、また萩焼窯元に弟子入り体験する「萩陶芸大リーグ」が開催されました。

団塊世代を対象としたシニアカレッジ平成秋塾(20日～24日)には24人が、若者を対象とした萩・維新塾(25日～31日・写真)には28人が参加しました。  
萩陶芸大リーグ(17日～25日)には38人が参加し、



市内19窯元で萩焼の制作技術を学びました。

## 萩博物館 来館者30万人突破



8月8日、萩博物館の来館者が30万人を突破しました。平成16年11月に開館して2年9か月での記録。10万人突破は平成17年7月(開館8か月)、20万人突破は平成18年8月(開館1年

9か月)。7・8月に開催された海洋生物の初めての企画展「君と竜宮城へ」知られざる深海への旅」は親子連れに好評で、昨年の同時期に比べ入館者は7割増加。

△30万人目となった  
広島三次市の吉川さん親子

秋山香乃さん 出版を祝う会

「晋作 蒼き烈日」

私が描きたいのは遠い過去の英雄ではなく、雅子への愛、おうへの恋をからめ、もう少し身近に体温や息づかいを感じる事ができる晋作像です。



歴史・時代小説の人気作家、秋山香乃さんの著書「晋作 蒼き烈日」がNHK出版から刊行されたことを記念して、発売日の7月25日萩本陣で、26日には下関市で「出版を祝う会」が開かれました。

発起人を代表して野村秋市長が、「秋山さんは、若い新しい感覚で時代小説を書ける人で、萩にとっても大切な方です」とあいさつ。

「晋作 蒼き烈日」は、幕末の志士、高杉晋作の短くも激しい生涯を、新しい視点により柔らかな文体で描いた時代小説で、山口新聞に2005年6月から翌年4月まで長期連載されました。秋山香乃さんは、福岡県在住で、2002年に時代小説「歳三 往きてまた」でデビュー。山田顕義を描いた「五稜郭を落とした男」、「総司炎の如く」な

ど多数の著書があります。時代小説でありながら、現代的な会話調のストーリー展開など、読みやすく魅力的なことが特徴で、新進気鋭の女流作家として注目されています。

下関市在住の作家・古川薫氏は「27年という短い生涯だった。晋作の美しくも凄絶な戦いと愛と青春の挽歌を、時代小説の旗手・秋山香乃が情熱のペンで描き出す会心作」と絶賛。



「晋作 蒼き烈日」  
A5版 / 444頁  
定価 1890円  
発行 NHK出版  
(048・480・4030)  
★2名にプレゼント(著者サイン入り) 申込方法15P

関 厚夫さん 萩・維新塾

「ひとすじの螢火」

—吉田松陰 人とことば—



幕末にも通じ、現代にも通じ、いまをいかに生きるか」という永遠の問いを松陰とともに考えていただきたい。

文春新書から8月20日に刊行された「ひとすじの螢火—吉田松陰 人とことば」の著者、関厚夫氏が、8月27日、萩市民館で開催された萩・維新塾の講義(萩市民大教養講座として一般にも公開)で、講演を行いました。

「ひとすじの螢火—吉田松陰 人とことば」は、幕末の志士、松下村塾の指導者だった吉田松陰の遺した百の珠玉のことばか

ら、まっとうに生きてきた稀有な人の人生をたどっており、今の日本にもっとも必要とされている人の姿が、ここにあります。

平成18年11月〜19年3月にSANKI EXPRESS、平成19年1月〜5月に産経新聞朝刊に連載され、大反響を呼び、このたび一冊の本として刊行されました。

関厚夫氏は、産経新聞東京本社編集委員。1962年大阪市に生まれ、同志社大学英文科を卒業。86年に産経新聞社に入社、ベルリン支局長を経て、現在は東京本社編集局で企画記事を中心に執筆。



「ひとすじの螢火」  
—吉田松陰 人とことば—  
新書版 / 470頁  
定価 1200円 (税別)  
発行 文春新書

萩で撮影が行われ、2006年に公開された映画「長州ファイブ」のDVDが2バージョンで発売されます。

9.28 (金) DVDリリース!



レンタル同時リリース

スペシャル・ブックレット付  
【chosyu edition】  
5,040円



お求めやすい  
【通常版】  
2,940円

■発売 長州ファイブ製作委員会 (下関市 0832・67・5151)



# 見はてぬ夢の町—萩



## 大宅 壮一



昭和32年刊  
「萩一見はてぬ夢の町」所収

のころから強く刺激し、立身出世

主義、個人的栄達主義に駆り立て  
ることは否めない。」と萩の町の  
精神風土がこの辺りからきている  
と指摘する。

大宅は吉田松陰とそれにつなが  
る軍人や政治家の思考形態から生  
みだされる精神風土をどのよう  
に理解していたのだろうか。萩の精  
神風土の形成が関ヶ原の合戦にま  
で遡るのか、浅学の自分にはよく  
解らないが、松陰の言う「僕は忠  
義をするつもり」「畢竟一誠なり」  
などの片言からも松陰が無私の大  
切さを訴え、功業心を排せと論し  
ているように聞こえ、どうも大宅  
の解釈とは相容れない気もする。

勿論「明治の王政復古に際して、  
諸藩に先んじて萩城を解体し自発  
的に武装解除をして、真つ先に維  
新のパスにとびのつた」という見  
方や、薩長の人々が維新後活動の  
場を多く得て、結果として多くの  
人が出世し、また郷土愛をテコに  
同郷人を出世に導いたという事実

は充分理解しているが。

「吉田松陰」はその時代背景で  
評価が異なる。軍政日本の時期は  
歪められて利用され、戦後は逆に  
思想パージにあった。そして奈良  
本辰也が松陰の再評価を世に問う  
て「人間松陰」がようやく復活  
定着の兆しとなったのがこの頃で  
ある。

大宅は記す「私たち外来者に  
異様に感じられたのは、こ  
の小さな町に停車場が三つもある  
ことである。」と。そしていぶか  
りながら大宅流の分析をする。「お  
らが大将(田中義二)が天下を取っ  
たとき、萩駅のほかに大将の生地  
には玉江駅、当時の通相久原房之  
助の生地には東萩駅をつくらせた  
のである」と。

大宅はさらに旅館の主人で元代  
議士の厚東常吉の橋本川の改修に  
からんだ夢物語や、明治の実業家  
藤田伝三郎が献金によって男爵を  
授かった等、萩の町の聞き書きを  
「斜に構えた視点」でつづる。取

材された側が大宅好みに話した感  
がしなくてもいいが、いずれにし  
てもそれまで誰も書かなかった見  
方を気負いもなくサラリと書き流  
しているのが面白い。

そして大宅は市民生活にも目を  
向ける。「萩は毛利藩のお膝元だ  
けあって、職業軍人の産地として  
知られた。それに此の地は、退役  
軍人が余生を送るのには、物価が  
安く、周囲も尊敬するので理想的  
だったらしい。一時この在郷軍  
人会では中将二人、少将七人もい  
た」と。歴史の栄光を背にその再  
来を模索しつつも、いまひとつ活  
気のない萩のまちと人々の様子を  
大宅は静かにそしてしっかりと捉え  
ている。

「私の眼に映ったこの町は、見  
はてぬ夢の町でしかなかった。」と。  
大宅は萩の町の歴史の奥深さを感  
じる一方で現況とのギャップに驚  
きを隠さない。

大宅は維新時のあの燃えるよう  
な活力が今なお何らかの形で萩の

「億総白痴化」「駅弁大学」など  
社会派の造語を次々に生みだ  
し、鋭い評論活動を幅広く展開した  
大宅壮一もまた萩のまちを意識した  
一人だ。

大宅は昭和29年、地域の人物や事  
蹟を独特の視点で切り取ってゆくと  
いう出版社の企画取材のため萩に  
やってきた。

萩を訪れた多くの文人が風光の明  
美さと歴史の重さに感動するのを常  
としていたが、大宅は違った。大宅  
はその地の飾らぬ現実をみつめ、辛  
口の論評を下すのだ。

大宅の目を通じた戦後間もない萩  
の町が浮かび上がる。

「萩では吉田松陰が自慢のタネ  
である。松下村塾、松陰神社、松  
陰幽囚の家などがそのまま残って  
いる。観光案内図を開いてみると、  
伊藤博文、木戸孝允、高杉晋作、  
久坂玄瑞といったような維新の元  
勲や志士をはじめ、山県有朋、桂  
太郎からおらが大将田中義一にい  
たる軍閥巨頭の生家や旧宅が中心  
になっている。これらをひとまわ  
りするだけでも、タップリ一日は  
かかる。」

そして大宅は考える。「いずれ  
にしても、今も彼らがこのように  
顕彰されていることは、ここで生  
まれ、ここで育つものの頭を幼少

# 10余年ぶりの萩

明屋書店会長 **安藤 明** さん  
(松山市在住 90歳)



「故郷は温かいもの」

▲母校・明倫小学校にて記念撮影

萩ネットワーク平成19年1月号、クローズアップのコーナーで紹介した明屋書店会長・安藤明さん(愛媛県松山市在住)が、7月7日から9日まで、幼少期を過ごした萩を10余年ぶりに訪問されました。今年6月に全面改装してリニューアルオープンした同書店の萩店を視察、従業員を激励したあと、野村萩市長、高木萩博物館長と会食。かつて安藤さんが過ごされた頃(昭和初期)の萩の様子や、その当時の人々の消息など、懐か

しい話に花が咲きました。翌日は出身校である明倫小学校を訪問、よほど感慨が深かった様子で、「昔はこの位置に建物があった」「この松の木は当時からあった」など、熱心に往時の記憶を辿って話されました。住まいがあった東田町界隈も歩かれ、老舗店舗に立ち寄り昔話を楽しめられたようです。

ただ、かつての賑わいが嘘のように寂れてしまった商店街の町並みに、落胆の思いを隠せなかつた様子でした。久し振りの萩再訪の感想を次のように話されました。「幼少の頃過ごした萩の町、今は当時の友人や知人もおらず、自分にとつて、萩はだんだん遠くなつていくような気がしていました。今回、機会あつて約10年ぶりに萩を再訪しましたが、野村市長さんをはじめ、多くの方々から手厚いおもてなしをしていただき、萩の皆さんに心から感謝するとともに、やはり故郷は温かいもの、との思いを強くしました。」

## 大宅壮一文庫

大宅壮一が亡くなった翌年の1971年、膨大な雑誌のコレクションを基礎として作られた私立図書館。

大宅壮一は、ことあるごとに古書市、古本屋通いを続け、およそ20万冊の蔵書を残した。生前その資料室は、雑草文庫と称され、蔵書のほとんどが雑誌、雑本で占められていた。週刊誌をはじめとする通俗的な雑誌を、大宅独特の視点と方法により索引づけられている。

多くのジャーナリストやライターに愛用され、年間の利用者は約8万人。

□所在地 東京都世田谷区八幡山3-10-20  
☎03-3303-2000

□交通 京王線八幡山駅 下車、徒歩8分

□開館 10:00~18:00(休館:日・祝日)

□入館料 500円(資料を10冊まで閲覧できる。11冊以上の閲覧、資料の複写は有料)

まちに息づいている筈だと期待していたのかも知れない。大宅の感じた意外感、今に生きる私たちが共に感じている課題であるとも言えよう。

大宅の指摘から半世紀、萩の町では再生のための様々な取り組みが行われている。「維新の志とエネルギー」に今一度思いを致し、形は変わるがまちじゅう博物館という概念に昇華して「見果てぬ夢」を現実のものにしようという活動もその一つだ。今年には松下村塾が開塾して150年、来年は明治維新140年、再来年は吉田松陰没後150年の節目であり、萩の未来を本質的に考える好機だといえよう。市民の近未来の夢はまちに散在する近世都市遺産群を「世界遺産」に登録することだという。ここ数年

の節目の時期、「歴史は結果ではなく永遠の過程である」ということに、市民の意識がどれほど迫れるか。

好意的ではあるが辛口の論客大宅壮一は異色の文化人だ。大正末期東大在学中に「社会問題講座」をひとりて企画編集してベストセラーとする。そのご文芸評論家として活動する傍ら昭和8年には月刊誌「人物評論」を創刊、文壇は勿論あらゆる分野の人物に鋭く切り込み喝采を得る。戦後も鋭い観察眼で「亡命知識人論」「無思想人宣言」などの書を著す。幅広く鋭い評論と人脈からマスコミ天皇といわれた。昭和45年没。現在政府委員等で活躍している評論家の大宅映子は娘さんだ。(高井 誠 エッセイスト 日本ペンクラブ会員)



ゆったら、のんびら、本物の体験



△白松博之さんと奥さん紀志子さん  
後ろに「樵屋(きこりや)」の看板が見える

きこりや  
**農家民宿「樵屋」**  
オーナー **白松 博之 氏**  
(阿武町在住 60歳)

白松博之(しらまつひろゆき)  
1946(昭和21)年9月生まれ。66年  
奈古高卒。山林21ha、水稲1.2ha、野菜  
4.5haを経営。山口県指導林業士、元阿  
武萩森林組合理事、元山口大学非常勤講  
師、山口県立大学非常勤講師(文化人類  
学環境問題)、阿武町林業振興会副会長  
兼事務局、(有)あったか村代表取締役。  
1998年5月、枝打ち作業中転落事故  
に遭い、現在車イスで活動中、2005年7  
月、山口県第1号農家民宿「樵屋」を開業。

- 所在地 阿武町大字宇生賀 4009 番地
- 宿泊料金 1泊2食 お一人5,500円～  
(子ども4,000円)
- 予約・問い合わせ  
☎08388・5・0138  
<http://www.haginet.ne.jp/users/kikori/>

ケガを乗り越え

「自分こころをいって探す」

白松博之さんは、農家民宿「樵屋」の  
オーナーで、(有)あったか村の代表です。  
9年前に枝打ち作業中に木から転落、  
車イス生活に。ケガをする前は、白菜4  
ha・水稲3haを経営する町でも屈指の農  
業のスペシャリストでした。林業におい  
ても町の林業振興会の役員として活動を  
牽引し、自分たちが育てた木をこだわっ  
て使ってもらうために、アイデアを求め  
てまちとの交流などにも力を注ぎまし  
た。また間伐材魚礁の考案者のひとりで  
もあります。

順風満帆だった人生が事故で一転、「絶  
望との戦いに」。農業は長男の靖之さん  
が一手に引き受けました。苦しい闘病生  
活を乗り越え、ケガから復帰してまずは  
じめたのは「できること探し」で町の林  
業振興会のホームページ作りでした。

その翌年、阿武町林業振興会は、長年  
にわたり仲間と共に築いてきた林業生産  
技術の向上のための取り組み、全国に先  
がけての間伐材魚礁の開発、都市との交  
流等が認められ農林水産大臣賞を受賞。

山口県で第1号 農家民宿

農家民宿「樵屋」を開業したきっかけ  
は、秋の収穫の後の白松家恒例の子ども  
たち(2男1女)との家族旅行だったと  
います。2泊3日の宿泊旅行をケガを  
するまで14年間毎年続け、1泊はワゴン  
車の中の車中泊、もう1泊は民宿に宿  
泊。農繁期はどんなに人手があっても足  
りない、朝早くから夕方おそくまでの作  
業となり、子どもたちにも何かと我慢さ  
せることが多かったといえます。「子ど  
もたちへのご褒美の家族旅行でしたが、  
特に家族みんなでのんびり過ごした民宿  
の雰囲気に心身ともに癒されました。現

役を退いたら夫婦でこうした民宿を経営  
するのが夢でした。  
「農家民宿の最大の魅力はゆったり、  
のんびり、まずは心と体をリフレッ  
シュ」、お腹がすいたら旬の山の幸を満  
喫。食材調達はご主人の仕事。若い頃か  
らの経験で「ここに行けばあの食材が  
」。料理は奥さんの紀志子さんの出番。  
山菜料理が中心で「おばあちゃんから教  
わった味が基本です、若い世代のお客さ  
んにはお嫁さんの意見を聞いたたり」、家  
族のチームワークはバッチリです。  
8月のメニューは「ユキノシタとクズ  
の芽の天ぷら、スベヒユとイマビユのゴ  
マ和え、南瓜の南蛮漬、ウドと山芋の  
花のゆで味噌和え」と、超「自然食」。

板一枚、釘一本を

農家民宿のもう一つの魅力は農業や林  
業の体験。野菜の収穫体験はもちろんの

こと、春には山菜狩り、夏には間伐体験  
や木工教室、秋にはきのこ狩り、親子ふ  
れあいの場では「竹とんぼづくりや竹筒  
めし」体験など。阿武町版の体験交流は  
「本物を体験・実感できること」。「間伐  
体験でもプロの指導のもと本物のチェン  
ソーを使い、ひとかかえもある木材を実  
際に切る事もできます」。今後はグリー  
ンツーリズムの仲間と共に「絵付け教室」  
や「パン工房体験」、「漁業体験」等との  
連携も考案中です。

特に「化学物質過敏症患者」も住める  
村「あったか村」を展開中で、代表でも  
ある白松さんの合言葉は「村に来たから  
には板一枚、釘一本を打って帰ろう。そ  
れが、あなたが村に来た証だから」。  
お客さんとの交流は都会からの貴重な  
情報源となります。その貴重な情報源をア  
イデアへと結び付けてゆく交流滞在定住  
へ仕掛け人の腕の見せ所はこれからです。

懐石料理 あじろ

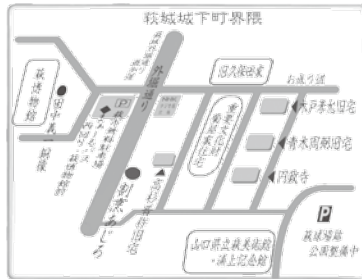
あじろ

話題の  
お店



萩城城下町に新装オープン！

「新店舗はお客様にやさしい設計にしています」と店主の田中利隆さん



厳選された地物新鮮素材と旬の味を提供する「懐石料理 あじろ」が、これまで営業していた今古萩町から萩城城下町の一角、外堀通り沿い(南片河町)に移転し、8月2日、新装オープンしました。

新店舗を施工した金子正史氏は、京都の数奇屋建築の名工 中村外二氏の内弟子となり、その技術を習得し萩に帰省。その洗練された技術と若い感性をマッチさせ、カウンターには檜で有名な木曾檜の400年物を使い、和の雰囲気さをさらに高めくつろぎやすくなりました。

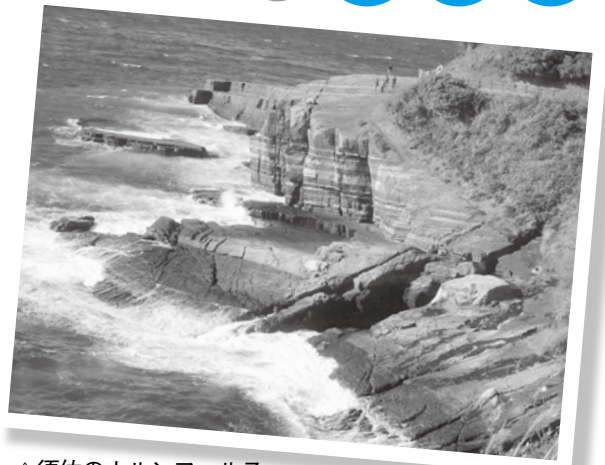
座席数は、カウンターが6席、テーブルが24席。人気料理は、あじろ御膳 (3,675円)、一味真御膳 (3,900円)、懐石料理 (6,300円～) など。

昨年夏には、小泉純一郎首相(当時)が来萩した際に食事をしています。

■営業時間 午前11時30分～午後2時、午後5時～9時  
■定休日 水曜日 ■住所 南片河町68番地  
☎0838・22・0010

つわぶきの館駐車場(須佐)から撮影した

ホルンフェルス  
が最優秀



△須佐のホルンフェルス

国土交通省が行っている「中国とるば写真コンテスト」で、須佐の特産品販売所「つわぶきの館」駐車場から撮影した「ホルンフェルス」が最優秀賞に選ばれました。

「とるば」とは、良い写真を撮る(とる)ことのできるパーキング(ば)の意味で、優れた景観があり、写真撮影が楽しめる、安全に駐車できるなどが条件。コンテストは今年から始まったもので、中国5県から143点の応募がありました。

NHK番組「新日本紀行ふたたび」に登場！

産声きこえる城下町 齊藤助産院(川島)



7月7日、NHKの人気番組「新日本紀行ふたたび」に、齊藤助産院が登場しました。昭和55年の新日本紀行では、大正時代から2万人のお産に立ち会ってきた齊藤トラスさん(当時89歳)が、高齢になっても助産師として活躍する姿が放送されました。あれから27年。トラスさんは96歳で他界し、齊藤助産院は、現在、孫の沖野雅代さんが継いでいます。助産師の仕事に誇りを持ち、母親たちの出産前の不安や産後の悩みに応える雅代さんの日々の姿が放送され、多くの人に感動を与えました。



# 道の駅・萩しーまーと

(ふるさと萩食品協同組合)

全国の道の駅で  
売上ベスト5!!

全国の道の駅約850か所のうち、売上高・集客数ともにトップ5にランクされる道の駅・萩しーまーと。萩の旬の味覚が集まる新名所としても定着してきた。同駅の運営主体・ふるさと萩食品協同組合の代表理事 組合長・大嶋宏史氏にお話をお聞きした。

連日大勢の来館者で賑わう道の駅・萩しーまーと



▲代表理事組合長・大嶋宏史氏



## 想定外?の好業績

開業が平成13年4月ですので、今年が7年目の営業年度となります。地産地消をキーワードに、観光客に照準を合わせたお土産市場ではなく、とにかく地元市民に支持される店づくりをしようと、組合員一同、努力を重ねてきました。昨年10月には念願のバイパス道路も完成し、集客・売上ともに右肩上りで推移、業績的には高位安定飛行状態にもついていたと思っています。当施設の年間売り上げは8億円、全国の道の駅の平均年商が1億円内外、いかに売上規模が大きいかが、ご理解いただけると思います。

開業前の立ち上げ準備期間に、多くの方々から「あんな場所に施設を作っても、そのうち閉古鳥が鳴いて閉鎖になる」などと異口同音に言われ、当初参画を決めていた事業者も櫛の歯が抜けるように次々と離脱、将来の不安から、開業日の前日に脱退された事業者も

ありました。

今となっては懐かしい思い出ですが、当時はやはりそれなりに苦しみました。そのようなアゲインストの風の中でスタート、でもそのことかえって組合員の結束が強くなり、結果的には良かったと考えています。開業後は1名の脱退者もなく、オープン当時のままの組合員構成で今日まで来ています。これも、共同店舗の運営から

いうと珍しいことで、普通6年も経つと、業績不振で入店者の入れ替えがあるものです。一方、開業後の順調な様子を見て、新たに入店を希望される方も多くありますが、開業まで、そして開業当初の苦勞を共にした組合員各位との関係を大切にすべきだとの観点から、一切お断りしてきた次第です。

## 標榜したのは、地産地消の実践店舗

観光市場になることを否定、あくまで、地元市民の台所を目指して開業しましたので、競合となるのは市内各所にある大規模スー

パーや食品スーパーチェーン。

いかに当館として特徴を出すか、それが当時ブームになりつつあった、地産地消。幸い、立地が魚市場の隣接地、他所から鮮魚活物を仕入れる必要は全くなく地物オンリーで勝負できます。しかも直接セリで買って店頭に並べますので、中間マージンや輸送費をカットし、価格弾力性を持って商売ができます。

水産加工品に関しても、地場の製造メーカーが直売の形で入店していますので、品質・価格とも優位にある訳です。野菜果物にしても広域合併により萩市は青果物の宝庫となり、JAさんや生産農家の皆様のご協力を得て、四季折々の青果類を品揃えすることができ

ます。現状、販売商材の地元比率は概ね8割、山口県の進める地産地消推進活動の認定店舗として、館内の鮮魚4店・青果1店・飲食3店が認定を受けており、まさに、全館まるごと地産地消拠点。今後地産地消の流れは確実に消費者



支持を受けると考えていますので、さらなる地物比率の向上を目指していきたいと思えます。

## 「萩シーマーとビジネスモデル」は全国区

NHKをはじめとするメディアへのレギュラー出演や連載番組など、一般消費者向けに萩の魚のPRを開業以来続けていることは皆さんもご存知だと思います。

一方、水産関係の業界紙をはじめ食品商業や経済専門誌からも頻りに取材を受け、その方面での知名度もなかなかのものがああります。これらの記事を見て視察に来られる団体が、北は北海道・南は沖縄から、年間50件を下回りません。

特に、地域活性化を目的とした拠点施設の運営モデルとして、か

なり注目されているようです。いわば、萩発のビジネスモデルの他県移出が静かに進んでいる訳です。

## 地域への貢献を加速

地域物産の販売拠点・情報発信拠点として、当初想定していたベースはほぼ固めつつあると自負しています。それらの基本機能を活かし、そして2名の優秀なインターン者(中澤・篠原)の能力を、今後は地域貢献に活用していきたいと考えています。

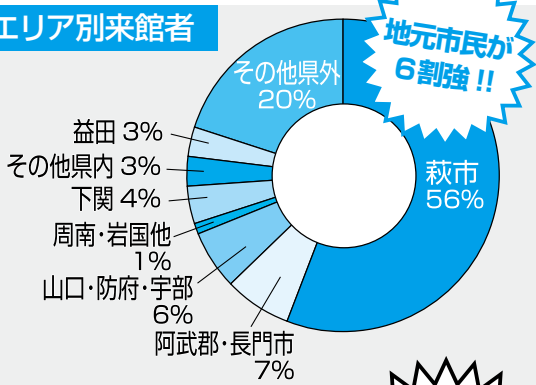
この春より、当館に集まる観光客を、市内の観光施設に還流させるひとつの手法として、チケット割引サービスを始めました。例えば、萩博物館の団体割引入館券を

まとめて購入し、割引価格で個々の観光客に提供するというものです。

また、山口県が設置する「むらまち交流ステーション」に8月27日に認定され、この秋から、中山間地区での農業体験プログラムや農家・漁家民宿の案内など、萩広域エリアの持つグリーン・ブルーツーリズム系の観光資源を来館者に紹介していく役割を担うこととなります。

萩シーマーとが地域活性のために取り組んでいくべきテーマをひとつずつ確実に形にしていける、多少手前味噌ではありますが、そのノウハウとパワーを持った組織ですので、今後の展開が本当に楽しみです。

## エリア別来館者



地元市民が6割強!!



近隣のお客様で賑わう金曜日定例の朝市

**●会社プロフィール**  
 道の駅 / 萩シーマーと(運営主体:ふるさと萩食品協同組合)2000年10月設立・2001年4月開業  
 年商 8.4億円(2007・03決算期 対前年+9.3%)  
 年間来館者数 約140万人  
 構成員 15事業者(直営含め店舗数18店舗)  
 従業員数 90余名  
 所在地 萩市椿東4160-61  
 ☎0838・24・4937  
 HP <http://www.axis.or.jp/~seamart/>  
 ■東京都板橋区大山商店街にある萩市アンテナショップへの商品供給も萩シーマーとが担当

# あなたの定住を応援します!! 萩ふるさとインターン応援団

問い合わせ  
 萩市企画課(0838・25・3819)、定住支援ホムページ <http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/teiyu/>

## 萩市にU・J・インターンされた皆さん③



厚東 満さん(60歳)

場)・はな委員会の役員を務めるなど、市内の緑化活動に積極的に取り組まれています。

今後は、「昨年取得した園芸福祉士の資格を活かし、園芸活動を通じて福祉施設等に役に立ちたい」と厚東さん。

また、これまで続けてきたカワヅクラの萩市への寄贈を、今後も継続していくそうです。

昭和40年に萩商工高校を卒業後、静岡県庁に入庁。以来42年間、静岡県に在住。今年4月に定年とともに実家のある萩市越ヶ浜にUターン。

静岡在住時には、2月に花が咲くカワヅクラの苗木を長年にわたり萩市に寄贈。その数合わせて200本。今年8月には、この功績が称えられ、野村萩市長から感謝状が贈呈されました。

現在は、母親の世話をしながら、萩市花と緑のまちづくり推進協議会や、萩やすらぎ苑(斎

院)に、行政にはもっと協力してほしいですね。

# 「萩の真ふぐ」

## 加工品開発プロジェクト始動!



▲時間をかけてチップで燻した【燻製】



▲新鮮さをそのままパック【たたきブロック】



▲東京六本木ヒルズ開催の全国道の駅フェアに出展、運営は萩大志館の有志各位

日本一のふぐ集積市場「下関はたとまり南風泊市場」に水揚げされる真ふぐのうち、萩市越ヶ浜の延縄船団が水揚げするシェアは、なんと7割。

### 通年供給可能な真ふぐ加工商材を新規開発!

この萩の固有特産資源ともいえる「真ふぐ」を一気にブランドに押し上げようと、昨年末の地域ブランド（地域団体商標）申請に引き続き、萩商工会議所主導で、通年供給が可能な真ふぐの加工品の開発・販促のため「萩発・平成ふぐ維新プロジェクト」が今年5月に組織されました。実行予算は900万円（日本商工会議所・平成19年度地域資源∞全国展開プロジェクト）。会長には萩の魚ブランド化推進協議会の大嶋宏史氏が就任、今年4月の漁期に確保した真ふぐ活魚のミガキを原料に、各種加工品の試作に着手しました。

8月現在、「たたきブロック」「燻製」「一夜干し（二汐・梅酢味噌）」「唐揚」「西京漬け」「粕漬け」の6種が製品化されました。真ふぐ活魚ミガキを原料とした加工品はウェブ上でサーチする範囲では、これまで本格的には販売されておらず、いずれも希少な製品といえそうです。

### サンプル配布・無料試食を各地で実施

新製品のデビューは8月4日。東京六本木ヒルズで開催された全国道の駅物産フェアにて、来場者に抽選でモニターサンプリング（試食アンケート記入を条件に商品サンプルを提供するマーケティング手法）として合計100ケースが配布されました。

郵送回収されたモニターアンケートの評価は予想以上に高く、また「知人に贈りたい」「今年のお歳暮に使いたい」など発売前の試作商材にもかわらず、嬉しい問い合わせもありました

今後、秋口までに蒲鉾・天ぷらなどの練り製品や雑炊・茶漬けなどの乾燥商材も試作開発予定で、ラインナップが揃う9月末に記者発表&試食会を開催予定です。

### 今後の無料試食の予定

首都圏エリアに於いては、10月26日（金）に板橋区大山商店街のとれたて村にて、10月27、28日（土日）には世田谷で開催される幕末維新祭りに特設ブース出展し、それぞれ50ケース程度のモニターサンプリング。萩市現地では、10月7日（日）開

催の第12回萩・魚まつりにて、一般消費者向け500名規模の真ふぐ加工品の無料試食。

### 業務用の需要開拓も

一般消費者向けのマーケティングと並行して、業務用需要（飲食店用のメニュー素材）の検証も進めています。

具体的には、東京のおいでませ山口館や萩大志館（東京在住の萩出身者の会）、山口県大阪事務所などの協力を得て、首都圏・関西圏の大都市部にある山口県ゆかりの飲食店に製品サンプルを無償提供、萩の真ふぐメニュー採用に向けての営業活動を展開します。

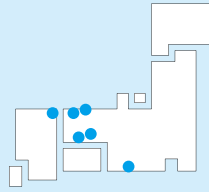
これまで下関に独占されてきた「ふぐ山口県」の全国区イメージを、この真ふぐを起爆剤に多少とも萩に引っ張って来ようと、関係者一同、おおいに盛り上がっています。

### ★サンプルプレゼント

真ふぐ加工品詰め合わせを10名にプレゼント。申込方法は15ページ。  
※サンプル商品同梱のアンケートに記入の上、ご返送いただくことが条件となります。



# 同窓会だより



## ★事務局からのお知らせ

クラス会、同窓会、皆さんからの投稿記事をお待ちしています。萩ネットワーク事務局まで、お送りください。また事前にご連絡いただければ、人数分の資料をお送りします。

## 広島指月会

7月7日

ホテルグランヴィア(広島市)



北東由美さん(昭和49年卒・事務局)ほか4人のリコーダー演奏

## 東海指月会

7月8日

マリriottアソシアホテル(名古屋)



親子連れの出席が2組、幼児・子どもも5~6人出席

## 7月14日 たちばな会からたち会 広島支部総会

ホテルセンチュリー21(広島市)



台風接近、中原洋美たちばな会広島支部長(49年卒)3回目の広島市議選当選

## 7月21日 からたち会九州支部総会

東京第一ホテル小倉(北九州市)



小倉の百万まつり、副会長の山谷幹夫氏が編集された懐かしい思い出写真のスライド上映に一同感激

## 8月10日 萩光塩学院同窓会

ピアシティ萩(萩市)



約90人出席。佐藤和子校長から「48期、約1200人の卒業生を出した小学校が来年から休校します」と報告

## 8月8日 萩高校同窓会

萩高校体育館(萩市)



今年のテーマは“志士”。維新の志士と、引き受け期の44期と、亥年のシシをかけたもの。母校体育館に約600人



**下関巴城会  
益田宗親会長ご逝去**  
萩合同窓会下関支部の下関巴城会会長の益田宗親さんが、7月26日亡くなられました。享年82歳。  
益田会長は、下関市で益田耳鼻咽喉科医院長や下関市医師会顧問を務める傍ら、同窓会の運営に多大に尽力されました。平成14年には、勲五等双光旭日章を受章されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

会員からのお便り  
**めーるぼっくす**

○中山光夫 (大阪市)  
本年も8月15日の大東亜戦争の敗戦記念日がやって来ました。  
先般の同窓会で戦争時(国民学校時代)の話が出て、萩市は戦闘機松陰号を陸軍と海軍に寄贈して、我々はその写真を各自に貰って大事に保管していたものだが、大阪に出て来て萩の家が何度も引越したためで行方不明になってしまいました。どなたか今でも持つておられる方はおられないでしょうか。

## MARUの店名は萩との縁(巴)から

出身は東京都港区麻布です。都心のドーナツ現象で廃校となつてしまった港区立飯倉小学校に学び、再開発で今の六本木ヒルズや東京ミッドタウンに生れ変わった、かつての萩藩・毛利家下屋敷跡の公園や池でメダカを採ったりクチボソを釣つて遊んだことを懐かしく思い出します。萩藩邸跡で幼い頃に遊んだ自分が「縁」あつて、その藩都である萩に店を開く、実は店の名前 ○(MARU)は、縁「巴」からきています。大学在学中にアルバイトをしていた(株)テンアライド(居酒屋の天狗チエーン)にそのまま入社、8年間働いて、今から17年前、家内の郷里である萩に移住しました。移住のきっかけはいろいろとありますが、最大の理由は子供たちにとつて良い



地産謹製料理店  
MARU

小祝 敦 さん  
(萩市吉田町在住 47歳)



△萩との「縁」を表した店名ロゴ

- (MARU)
- 住所 吉田町78
- 営業時間 17～23時(日・祝休)
- ☎ 0838・26・5060

◎小祝 敦 (こいわい あつし)  
1959年(昭和34年)10月東京都生まれ、萩市吉田町在住、東京都港区立飯倉小学校、城南中学校、錦城高等学校、国士舘大学政経学部卒。  
1982年(株)テンアライド入社、1990年萩に移住。各種アルバイトを経て、1992年MARUをオープン。2005年姉妹店NORMALを開業。  
趣味は食べ歩き・水泳・ジョギング・美術全般(絵画・陶芸) 座右の銘は「原因はすべて内側にある」(原因はすべて自己にあり。外的要因のせいにはしない)

生活環境を与えたいと考えたこと。

当時、東京ではオウム真理教などのあやしい事件があつたり、何か不安な事象が多く、決して子供たちにとって良い環境だとは思えなかつたのです。

## 豊かな萩の食材を活かす 地産謹製料理を

移住後2年間はアルバイト生活をして、1992年にMARUを開業しました。オープンした頃は、「萩に無いメニューを」との考えで、萩以外の料理やお酒の品揃えをしていましたが、萩の食材の豊富さとその実力を知るにつれ、提供するメニューや食材入手のルートが今で言う「地産地消」スタイルになってきました。今では、メニューのほとんどが萩地元産の素材を使い、地元産の調味料で味付けし、地元産のお酒で、萩ならではの味を楽しんでいただくよ

うにしています。

2年前には姉妹店としてショットバーNORMAを開店、この時から、MARUの店名の前に「地産謹製料理店」というキャッチフレーズを付けました。これから先も地元産材にこだわった美味しいメニューの開発に取り組んでいきたいと考えています。店にお客様が溢れ、従業員が集い、そして資金が集まれば、自然と次の展開ができると思います。無理をせず、マイペースで、しかも楽しみながら前に進んでいきたい、これが自分流だと思っています。

## 「食」をテーマに魅力的な町づくりに参加

本業の関連で、現在二つの団体に所属し活動しています。萩元気食の会、こちらは萩市民に栄養バランスの取れたヘルシーな料理を提案していく活動と、萩産の豊

かな農水産物を使った名物料理を創作し、観光振興に寄与していくという2本立て。おなじみの「晋作弁当」は当会の自信作、この春には幕末パ

ンにむつみ豚のハムそして伝統野菜のチンシャをあしらつた「長州ファイブサンドイッチ」を発表しました。

もうひとつが、飲食店組合青年部、こちらは青年部長を務めています。どつちも料理しよう」という萩の地元食材の対決イベントを青年部で企画し、来年夏に向けて、萩名物・生きケンサキイカを使った創作料理に取り組んでいます。

いずれにしても萩は食材の宝庫、こんなに食べ物が豊かな地域は、日本広しといえど、めつたにあるものではないと思います。そのような恵まれた環境の中で、食の世界に携わっていることを、本当に幸せだと実感しています。





# 公立高校の来年度定員 萩高・理数科10人、萩商工15人減少

山口県教育委員会が7月に08年度の公立高校入学定員を発表し、萩高校の理数科、萩商工高校の工業系の学科でそれぞれ定員が減少します。

少子化の影響により、山口県内の全日制の定員は減少傾向が続いており、萩高で理数科が10人の減少となるほか、萩商工では、国際情報科が情報デザイン科となり、機械、電気、建設工学各料で5人ずつ減少します。

また、奈古高校は、須佐分校が来年度募集停止となるのを受け、生活総合科学科(30人)を廃止し普通科(35人)が新設されます。

## 2008年度入学定員

学 校	定 員
萩高	普通科160人、理数科30人【計190人】
萩商工	総合ビジネス科40人、情報デザイン科40人、機械科35人、電気科35人、建設工学科35人【計185人】
奈古高	普通科35人、生物資源科学30人【計65人】



△現校舍裏に建設中の萩商工新校舎(平成20年3月完成予定)

## 街のイメージアップは教育の充実から

# 週刊ダイヤモンド「教育」の安心度 萩市が全国39位



8月11・18日号(670円)

人気ビジネス誌「週刊ダイヤモンド」第31号で特集された「全国805都市ランキング 安心して住める街」の「教育」の安心度で、萩市が39位にランクされました。

この「教育」の安心度は、大学等進学率、塾・進学教室数、中学校教員数の各偏差値を基に割り出された教育偏差値によるもので、萩市は特に、子どもの数に比べて

教員数の多さが高ランクにつながりました。なお1、2位は東京都千代田区、渋谷区でした。

また、紙面では「中国地方は歴史的に教育熱心で、萩市を例にとれば、江戸時代に日本三大学府の一つとうたわれた明倫館、吉田松陰が数多くの維新の志士を育てた松下村塾の流れが現代にも受け継がれている」と紹介されています。

## 萩博物館だより

(☎0838・25・6447)

萩博物館リニューアル  
松下村塾開塾150年記念

## 長州男児の肝っ玉 松門四天王と桂小五郎

9月15日  
▽  
12月16日

「松陰門下の四天王」とうたわれる高杉晋作・久坂玄瑞・吉田稔麿・入江九一、そして「塾生の兄貴分」であった桂小五郎(木戸孝允)の生きざまを、彼らが残した資料から辿り、幕末維新の変革に命をかけた若き塾生たちの思いに迫ります。

▽入館料 大人500円、高校生300円、小・中学生100円  
※9月10日(月)は臨時休館。  
展示室の改修により、9月3日〜13日は、常設・企画展示室は閉鎖。その他の施設は無料で利用できます。



高杉晋作が下関挙兵時に身につけた甲

## 山口県立萩美術館・浦上記念館だより

(☎0838・24・2400)

ヴィクトリアアード  
アルバート美術館所蔵

### 初公開 浮世絵名品展

9月1日〜10月8日  
2万5000点を超える膨大な浮世絵コレクションから、鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎など浮世絵全盛期の絵師たちによる優品163点を、世界に先

▽開館時間 午前9時  
午後5時  
▽休館日 月曜日  
▽入館料 一般1000円、学生800円

鈴木春信[伝 松坂屋野風]  
C V&A Images/Victoria and Albert Museum

### 青磁を極めるー岡部領男展

10月17日〜12月6日

昭和期の陶芸界に鮮烈な印象を刻んだ孤高の陶芸家・岡部領男(1919〜1990)の足跡を辿る回顧展。



# 情報アラカルト

## 北陸地区

■十二代三輪休雪展

9月24日(月)～30日(日)

富山県富山市西町 富山大和  
(076・424・1111)

## 関東地区

■東京指月会

関東地区の萩高同窓会。今年40周年で記念誌を発行。

10月20日(土)午後2時30分

東京都千代田区 日本工業倶楽部  
(JR東京駅丸の内北口)

(03・3281・1711)

■東京たちばな会、からたち会関東支部合同

関東地区の萩商業高同窓会と萩工業高同窓会の合同総会。

11月10日(土)午後3時30分

東京都千代田区平河町 ホテルポール麹町(麹町会館)

(03・3265・5361)

■東京須佐会

関東地区の須佐地区同郷会。

11月24日(土) 正午

東京都港区高輪4・10・56 日立金属 高輪和壺館

(03・3443・1717)

■中村眞一 作陶展

10月2日(火)～8日(月・祝)

東京都豊島区東池袋1 池袋三越

(03・3987・1111)

■納富晋 作陶展

10月9日(火)～15日(月)

東京都中央区日本橋室町1・4・1 日本橋三越  
(03・3241・3311)

■鎌倉市姉妹都市(秋市、上田市、足利市、鎌倉市)物産展

秋市から、かまぼこ、海産物、夏みかん製品等が販売されます。

10月5日(金)、6日(土) 午前10時～午後5時(6日は4時まで)

鎌倉市小町1・10・5 鎌倉生涯学習センター  
(問) 秋市商工課  
(0838・25・3108)

■萩・世田谷暮末維新祭り 萩観光物産展

萩・阿武地域の特産品などが販売されます。

10月27日(土)、28日(日) 午前10時～午後6時(28日は午後5時30分まで)

東京都世田谷区 松陰神社入口若林公園前  
(問) 萩商工会議所  
(0838・25・3333)

■岡田裕 作陶展

10月10日(水)～20日(土)

愛知県名古屋市中区栄3・2・3

## 東海地区

日興證券ビル

サンギャラリー住恵

(052・263・4021)

■ドームやきものワールド2007

水津和之が出演します。

11月16日(金)～20日(火)

愛知県名古屋市中区大幸南1・1・1 ナゴヤドーム  
(052・719・2120)

## 関西地区

■明治維新防長殉難者顕彰会

10月28日(日) 午前10時

京都府京都市東山区本町15丁目778 東福寺境内退耕庵  
(075・561・0087)

## 中国地区

■西村不可止等身大展

9月4日(火) まで

広島県広島市中区鉄砲町4・5 ギャラリー ブラック  
(082・224・4569)

■BLAU PROJECT

秋のゲイジツ

陶芸家の濱中史朗、金子司の作品が展示されます。

9月14日(金)～24日(月・休)

島根県津和野町本町二丁目 古橋酒蔵  
(090・7775・3123)

■内村幹雄 作陶展

10月2日(火)～15日(月)

岡山県岡山市表町2・1・1

天満屋岡山店

(086・231・7111)

## 山口県関係

■山口指月会

山口地区の萩高同窓会。

10月18日(木) 午後6時30分

山口市湯田温泉 翠山荘  
(0833・922・3838)

■山口県立美術館常設展「十二代三輪休雪」

十二代休雪が三輪龍作と名乗っていた昭和40年代から50年代にかけての作品。

9月30日(日) まで

山口市亀山町3・1 山口県立美術館  
(0833・925・7788)

■ペアティル・ペアン作陶展

10月5日(金)～9日(火)

山口市後河原121 ギャラリー ラ・セーヌ  
(0833・924・4559)

■女流陶芸会山口県支部作陶展

松尾優子が出展します。

11月1日(木)～5日(月)

宇部市常盤町1・6・30 宇部・井筒屋  
(0836・35・8100)

■躍動会展(絵画)

藤崎恒頼が出展します。

10月18日(木)～23日(火)

長門市 ウェーブ  
(0837・22・1155)

## 第54回日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、玉村登陽、野坂和左、波多野善蔵、波多野英生の作品が展示されます。

東京展 9月18日(火)～30日(日) 東京三越本店

(日) 東京三越本店

名古屋展 10月3日(水)～8日(月) 三越名古屋栄店

京都展 10月10日(水)～15日(月) 京都高島屋

大阪展 10月17日(水)～22日(月) 三越心斎橋本店

仙台展 10月24日(水)～29日(月) 三越仙台店

金沢展 11月2日(金)～11日(日) 金沢21世紀美術館

## 九州地区

■九州指月会

九州地区の萩高同窓会。

9月8日(土) 午後4時

福岡県福岡市中央区天神 平和桜  
(092・771・4141)

■萩焼 坂高麗左衛門窯展

9月26日(水)～10月2日(火)

福岡県福岡市中央区天神 大丸・福岡天神店  
(092・712・8181)

■萩焼 守繁栄衛喜寿陶歩展

10月11日(木)～17日(水)

大分県大分市府内町2・1・4 トキハ百貨店  
(097・538・1111)



■07萩焼新作展

松尾優子、兼田知明、玉村信一  
が出席します。

10月24日(水)～29日(月)

福岡県北九州市北区船場町1・1

小倉・井筒屋

(093・5222・3111)

萩市関係

■「ちばな会本部総会」

萩商業高の同窓会本部。

10月20日(土) 午後6時～

萩商業高校体育館

(0838・222・0232)

■萩高第9期(昭32年卒業)同期  
会50周年

10月24日(水)

新規加入会員ご紹介

中根勝子さん (広島県府中市)

茂刈利夫さん (広島県東広島市)

長岡忠孝さん (広島県広島市)

野村和子さん (愛知県一宮市)

田辺敏博さん (広島県廿日市市)

城代政樹さん (広島県広島市)

松陰神社 (萩市)

松屋恒男さん (福岡県北九州市)

塩飽利直さん (萩市)

宮木忠雄さん (萩市)

野村繁三さん (東京都世田谷区)

水谷洋介さん (愛知県尾張旭市)

古屋正之さん (山口県下関市)

美萩工芸 (萩市)

日本大学 (東京都千代田区)

(6月28日～8月27日) 15人

・講演(C・Wニコル氏)▽午後

2時～▽萩高校体育館

・懇親会▽午後5時～▽千春

楽味楽亭(萩市堀内)

連絡先 プチハウス平田清子

(0838・252・2685)

■秋のゲイジツ

初秋の萩、古い民家・商家・酒

蔵で、絵画、写真、器、アンティ

クなどを展示販売。

9月14日(金)～24日(月・休)

傳宿天十平、萩画廊、TAZZ、

ギャラリー草莽

■ウィレッジ25周年コンサート

ジャズ界の巨人、ジュニア・マ

ンス(ピアノ)トリチャード・デ

イヴィス(ベース)。2人の珠玉

のデュオ。

10月28日(日) 午後7時～、午後

9時～▽7500円

萩市土原291-1 ウィレッジ

(0838・252・6596)

■田町萩焼まつり

10月5日(金)～8日(月・祝)

午前10時～

萩市東田町 田町商店街アーケ

ード

(問) 田町商店街振興組合連合会

(0838・262・2201)

■無角和牛まつり

10月14日(日) 午前9時～

阿武町奈古 道の駅「阿武町」

(0838・203・355)

■萩ものしり博士検定

11月18日(日) 午前10時～

山口福祉文化大学

①修士試験(資格 萩を愛する方)

▽出題形式 問題集から100問

択一式▽受験料1000円

②博士試験(資格 修士取得者)

▽出題形式 問題集から100

問 記述式・択一式▽受験料

2000円

申込締切 11月2日

※検定問題集(1000円)を販

売中

(問) 萩博物館

(0838・252・3166)

■第8回萩城下町マラソン

今年の招待選手は高岡寿成選手

です。今年からハーフマラソンは

「維新の里 萩城下町」を肌で感じ

ながら町を一周する新コースにな

ります。

12月9日(日) 午前10時スタート

種目 ハーフマラソン、10km、5

km、2km、ファミリー(2km)

申込締切 10月31日

(問) 萩市スポーツ振興課

(0838・252・7311)

出版情報

■日経新聞「還暦カミーン・スペ

イン巡礼記」連載中

筆者の土田芳樹さんは、萩高17

期(昭40年卒)で、今年3月に日

本経済新聞社を定年。嘱託として

4月下旬から、記者時代に温めて

いた企画・サンティアゴ巡礼(約

800km)を39日間で歩いた。団

民間ノウハウを図書館運営に!

新・萩図書館の館長を全国公募

萩市では、平成22年度中の開館を目指して、市民球場跡地に新しい図書館の建設準備を進めています。

これに伴い、建設準備から開館後の運営まで携わっていただく、新・萩図書館長を全国から募集します。

萩市ではこれまで、市民病院事務局長(平9年)や萩まちじゅう博物館長(平16年)を全国公募してきました。民間企業で培われてきたノウハウを新しい図書館の運営に活かしてみませんか。

■受験資格 昭和18年4月2日から昭和28年4月1日までに生まれた方で、次の条件のすべてに該当し、萩市内に居住できる方

- ①本が好きの方
- ②民間企業等で組織管理・運営の経験、実績がある方
- ③市民活動に理解のある方

■報酬 年額500万円(社会保険あり)

■採用予定日 平成19年11月1日

■応募期限 9月28日

※詳しくは萩市ホームページ(<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp>)

■問い合わせ 萩市総務課人事係(0838・25・1239)

A5判/283ページ

定価 1980円

発行 アサヒビール株式会社

プレゼント

①真フグ加工品(詰め合わせ)を10名様

②「晋作 蒼き烈日」(著者 秋山

香乃のサイン入り1890円)

を2名様

申込方法 官製ハガキに住所、氏

名、電話番号、近況などを明記の

うえ、萩ネットワーク協会プレゼン

ト係まで。締切は9月30日



その④ 秋の彼岸から紅葉の頃まで

# 萩の風物詩



風物詩

06

## しらす干し

萩はちりめんの名産地。原料となるシラスの漁期は春と秋の年2回。菊ヶ浜の沖合い1km程度と漁場が近く、漁獲されたシラスは最寄の浜崎漁港に活きたまま水揚げ。着岸を待ち構えていた加工場のトラックが急いで工場に運び、釜茹で、その日のうちに天日干しされる。秋漁のシラスは純白で最高級品、高値で取引される。



風物詩

07

## 稲刈り・はざかけ

秋は米の収穫期、萩市内の各地で稲刈りの風景が見られる。近年は大型の乾燥機の普及で、昔ながらの天日干し(はざかけ)の風景を見ることが少なくなったが、かつては自然の陽光を利用した稲穂の乾燥が行われていた。懐かしい風景が、またひとつ消えつつあるが、天日干しの効用が見直されて復活しつつあると聞く。

風物詩

08

## しろさばふぐ漁

秋になると庶民のふぐ“しろさばふぐ”の延縄漁が始まり、紅葉の頃にピークを迎える。萩では“かなとふぐ”の名前で親しまれ、鍋が恋しくなる時期に、普段使いの価格でふぐが味わえるのは萩市民の特権。これをカチカチに干した“干しふぐ”は、萩のおせち料理の必需品、今でも浜崎の水産加工事業者で極少量が生産されているが、すぐに売り切れ、毎年品薄状態の伝統食品。

風物詩

01

## 十五夜

中秋の満月を鑑賞する歳事。もともとはこれから始まる稲の刈入れ期を前に、収穫を予祝する初穂祭としての意味合いがある農耕儀礼のひとつ。お供えは丸い月を模った団子と、ススキの穂。ススキの穂には魔よけの力があるとされていた。この一夜に限り、他家のお供え物や他人の畑の作物を勝手に獲ってよいとされる風習が全国各地に伝えられている。



風物詩

04

## 婚礼と地蔵

萩の島嶼部や漁村地区には婚礼にまつわる面白い風習がついに先頃まで行われていた。婚礼のある家に、若者たちが集落内にある地蔵を持ち込んで、振る舞い酒を受けるというもの。地蔵を持ち込むのは“嫁が永く居つくように”という縁起かつぎ。村内の地蔵が無くなると、同じ意味で、漁船の錨を持ち込んだとのこと。運びこまれた地蔵を元の場所にお返しするのは婚家の仕事、大変骨が折れたという。

## お萩

風物詩

02

春と秋の彼岸につきものの「ぼたもち」と「おはぎ」。もち米とアンコで作られた同じ食べ物だが、春の彼岸は「牡丹餅(ぼたもち)」と呼び、秋は「お萩(おはぎ)」と使い分ける。春が「こしあん」なのに対して、秋は「つぶあん」とも言われている。甘いものが貴重であった往時、今では考えられないくらいのご馳走であった。



風物詩

05

## 梨の収穫

萩市の北東部小川地区は果物の宝庫。高原状にある大規模な農業団地では名物“小川梨”の収穫がピークを迎える。夏の終わり頃から、赤梨とよばれる「幸水」の出荷が始まり、9月に入ると「二十世紀」その後は大型種の「愛宕」「新雪」と品種を変えながら晩秋まで続く。

風物詩

03

## イカ干し

萩名物ケンサキイカの盛漁期は9月、大量に漁獲され価格も手頃になるため、この時期漁家の軒先や港の空地でイカ干しの風景が見られる。見島など島嶼部では、水揚げされたばかりの活きたケンサキイカを港でさばき、手際よく干していく様子に出会う。こうして干されたケンサキイカは、最高級品の証“一番スルメ”の名前で流通する。また、秋が深まると地元ではドンコと呼ばれるイカの王様アオリイカが漁獲され、これも一夜干しに加工される。



■人の動き(平成19年7月末日)

萩市:人口/57,804人 男/26,598人 女/31,206人 世帯数/24,591世帯  
阿武町:人口/4,117人 男/1,831人 女/2,286人 世帯数/1,633世帯